

## 「こども誰でも通園制度」に関する事業者アンケート調査について

### 1 アンケートの概要

#### (1)目的

「こども誰でも通園制度」について、次年度の本格実施に向け、よりよい制度の検討のため、こども誰でも通園制度の事業者の意見を聴取するもの。

#### (2)対象

こども誰でも通園制度事業者23か所

#### (3)調査期間

令和8年1月16日～1月23日

#### (4)回収数

22か所

※端数処理のため、比率の合計が一致しない場合があります。

### Q1 定員は何名ですか？

6名定員が50%と最も多くなっている。

項目	回答数	比率
3名定員	5	23%
4名定員	5	23%
5名定員	1	5%
6名定員	11	50%
合計	22	100%

### Q2 実施方法を教えてください。

在園児合同(専用室あり)が55%と最も多くなっている。

項目	回答数	比率
専用独立型	9	41%
在園児合同型(専用室あり)	12	55%
在園児合同型(専用室なし)	1	5%
合計	22	100%

Q3 利用者に制度の理解を得られていると思いますか？

「思う」「どちらかと言えば思う」が86%となっている。

項目	回答数	比率
思う	8	36%
どちらかと言えば思う	11	50%
どちらかと言えば思わない	2	9%
思わない	1	5%
合計	22	100%

Q4 国のシステム(こども誰でも通園制度総合支援システム)は使いやすいですか？

「使いにくい」「どちらかと言えば使いにくい」が68%となっている。

項目	回答数	比率
使いやすい	2	9%
どちらかと言えば使いやすい	5	23%
どちらかと言えば使いにくい	8	36%
使いにくい	7	32%
合計	22	100%

Q4-1 使いやすい、どちらかといえば使いやすいと思う点を選んでください。(複数回答可)

未回答が30%と最も多く、次いで、「予約受付が一元化される」「請求書の発行業務が効率化される」「当日のスケジュール管理ができる」が21%となっている。

項目	回答数	比率
予約受付が一元化される	7	21%
事業者間で利用者情報が共有できる	1	3%
請求書の発行業務が効率化される	7	21%
当日のスケジュール管理ができる	7	21%
未回答	10	30%
その他	1	3%
合計	33	100%

Q4-2 使いにくい、どちらかといえば使いにくいと思う点を選んでください。(複数回答可)

「システム入力や管理が多く、業務量が増加する」と「面談や定期予約希望等は個別対応になり、システムが使えない」が25%と最も多くなっている。

項目	回答数	比率
保育現場の端末環境が整えられない	3	5%
操作方法が複雑でわからないことが多い	10	18%
システム入力や管理が多く、業務量が増加する	14	25%
面談や定期予約希望等は個別対応になり、システムが使えない	14	25%
利用料がすべて反映されない	2	4%
未回答	8	15%
その他	4	7%
合計	55	100%

Q5 1か月あたり1人10時間の利用枠は適当と思いますか？

「適当である」「どちらかといえば適当である」が72%となっている。

項目	回答数	比率
適当である	8	36%
どちらかといえば適当である	8	36%
どちらかといえば適当でない	5	23%
適当でない	1	5%
合計	22	100%

Q5-1 適当でない、どちらかというとな適当でない場合、何時間の利用枠が良いと思いますか？

回答があったもののうち、「10時間以上20時間未満」が18%と最も多くなっている。

項目	回答数	比率
10時間未満	3	14%
10時間以上20時間未満	4	18%
20時間以上30時間未満	1	5%
30時間以上40時間未満	0	0%
40時間以上	0	0%
未回答	14	64%
合計	22	100%

Q6 定期利用と柔軟利用はどちらの利用が多いですか？

「柔軟利用」が55%と最も多くなっている。

項目	回答数	比率
定期利用	7	32%
柔軟利用	12	55%
同じくらい	3	14%
合計	22	100%

Q7 キャンセルポリシーの設定は適切であると思いますか？

「適切である」「どちらかと言えば適切である」が68%となっている。

項目	回答数	比率
適切である	6	27%
どちらかと言えば適切である	9	41%
どちらかと言えば適切でない	5	23%
適切でない	2	9%
合計	22	100%

Q8 利用年齢区分(6か月～満3歳未満)は適切だと思いますか？

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が54%となっている。

項目	回答数	比率
そう思う	8	36%
どちらかと言えばそう思う	4	18%
どちらかと言えばそう思わない	6	27%
そう思わない	4	18%
合計	22	100%

Q8-1 そう思わないと回答した方は理由をお書きください。

- ・ 満3歳児までの設定にすることによって、4月生まれと3月生まれで1年近く利用できる期間が変わってしまう。実際に不満の声が数人あがっているので見直してほしい。
- ・ 突発的に0歳児を預かるのは日々の様子が不透明なのでリスクも高く感じる。だれ通のねらいである『子どもの育ち』を達成する為には、0歳児では親子の関わりを深くもつことができる

親子教室などをだれ通内で長期スパンで行えたらと思う。

- ・ 6か月未満の子どもの利用の要求があったり、3歳の誕生日以降利用できなくなると、その後は行き場所がなくなってしまうということに疑問を感じます。
- ・ 満3歳だと、3歳の誕生日以降利用できず結局年度末まで利用できない。希望があればその年の3月末まで利用できると思う
- ・ 満3歳未満(2歳児)の利用者が少ない。0歳児と2歳児の職員配置基準がちがうので、在園児の職員配置に影響が出る。
- ・ 満3歳で入園する子は少なく、慣れてきたころに誕生日が来て利用できなくなる子が何人かいたので、できれば2歳児クラスの3月一杯までは利用できると思います。
- ・ 一緒に保育するにあたって、2歳の誕生日を迎えた子は体も大きく、動きもあるので、1歳に満たない子との同じ場での保育は安全安心ではないところもある。お互いの欲求を満たす保育は難しいところがあるなど感じている。
- ・ 6ヶ月のお子様は、一時預かりと同じだと思う。慣らせようではなく用事があるから利用です。
- ・ 0歳児は利用したとしても社会性の育成にはつながらない。

Q9 料金の徴収方法は何か？

「現金」が77%と最も多くなっている。

項目	回答数	比率
現金	17	77%
キャッシュレス	5	23%
合計	22	100%

Q10 在園児との交流はありますか？

「ある」「どちらかと言えばある」が87%となっている。

項目	回答数	比率
ある	14	64%
どちらかと言えばある	5	23%
どちらかと言えばない	2	9%
ない	1	5%
合計	22	100%

Q11 親子通園の実施状況を教えてください。

「実施していない」が77%と最も多くなっている。

項目	回答数	比率
実施している	3	14%
希望者のみ実施している	2	9%
実施していない	17	77%
合計	22	100%

Q12 特別な配慮が必要な子どもの受け入れを行ったことはありますか？

「ない」が82%と最も多くなっている。

項目	回答数	比率
ある	4	18%
ない	18	82%
合計	22	100%

Q12-1 あると回答した方はチェックを入れてください。

「障がい児」が100%となっている。

項目	回答数	比率
障がい児	4	100%
医療的ケア児	0	0%
要支援家庭児	0	0%
合計	4	100%

Q13 主に保護者との情報共有はどのように行っていますか？

「送迎時に口頭で行っている」が73%と最も多くなっている。

項目	回答数	比率
送迎時に口頭で行っている	16	73%
おたより帳やメモを使用している	5	23%
事前面談だけでなく、利用途中に個別面談を設けている	0	0%
インターネットやアプリを活用している	1	5%
その他	0	0%
特に共有する機会はない	0	0%
合計	22	100%

Q14 利用する子どもの育ちにどのような意義があると感じますか？(複数回答可)

「保護者や家族以外の大人(職員)と関わる機会を得ることができる」「同年齢・異年齢の子ども同士で関わりあう機会を得ることができる」がそれぞれ25%で最も多く、次いで「様々な遊びを経験できる」が24%となっている。

項目	回答数	比率
保護者や家族以外の大人(職員)と関わる機会を得ることができる	16	25%
様々な遊びを経験できる	15	24%
同年齢・異年齢の子ども同士で関わりあう機会を得ることができる	16	25%
発達状況に合った集団生活を経験できる	7	11%
保護者が子どもの理解を深めたり、関りを見直すきっかけとなることで関係性が良くなる	7	11%
その他	0	0%
特に感じない	2	3%
合計	63	100%

Q15 こども誰でも通園制度を行うことで、地域の子育て支援に有効であると思いますか？

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が73%となっている。

項目	回答数	比率
そう思う	7	32%
どちらかと言えばそう思う	9	41%
どちらかと言えばそう思わない	4	18%
そう思わない	2	9%
合計	22	100%

Q16 こども誰でも通園制度を行うことで、利用する子どもたちの成長・発達を感じる事ができますか？

「感じる事ができる」「どちらかと言えば感じる事ができる」が77%となっている。

項目	回答数	比率
感じる事ができる	11	50%
どちらかと言えば感じる事ができる	6	27%
どちらかと言えば感じる事ができない	5	23%
感じる事ができない	0	0%
合計	22	100%

Q17 こども誰でも通園制度を行うことで、保育者としての成長を感じる事ができますか？

「感じる事ができる」「どちらかと言えば感じる事ができる」が64%となっている。

項目	回答数	比率
感じる事ができる	5	23%
どちらかと言えば感じる事ができる	9	41%
どちらかと言えば感じる事ができない	6	27%
感じる事ができない	1	5%
未回答	1	5%
合計	22	100%

Q18 今後、保育についてどのようなことが課題や難しさだと感じますか？(複数回答可)

「子どもが環境に慣れることが難しい」が 25%と最も多くなっており、次いで「日々の業務負担が増え、全体的に子どもと向き合う時間が減っている」が 18%、「子どもの情報量が少なく、子どもの様子や特徴を把握することが難しい」が 14%となっている。

項目	回答数	比率
子どもが環境に慣れることが難しい	14	25%
子どもの情報量が少なく、子どもの様子や特徴を把握することが難しい	8	14%
在園児との関わりが難しい	1	2%
在園児との経験値の違いにより、同一の関わりをすることが難しい	7	12%
日々の業務負担が増え、全体的に子どもと向き合う時間が減っている	10	18%
子どもの安全確保が難しい	5	9%
要支援家庭の対応が難しい	2	4%
配慮が必要な子どもや家庭の対応が難しい	3	5%
緊張感が高く、精神的にゆとりのない保育を行っている	3	5%
特に課題や難しさはない	2	4%
その他	2	4%
合計	57	100%

Q19 今後、事業者にとってどのようなことが課題や難しさだと感じますか？(複数回答可)

「保育士の確保」と「人件費の保障」が 16%と最も多くなっており、次いで「補助拡充や安定的な資金確保」が 15%、「一時預かり事業とのすみ分け」が 13%となっている。

項目	回答数	比率
補助拡充や安定的な資金確保	15	15%
保育士の確保	16	16%
人件費の保障	16	16%
従事者の制度理解や負担軽減	11	11%
一時預かり事業とのすみ分け	13	13%
利用時間の拡充	3	3%
アレルギー対応等の安全・環境の整備	10	10%
制度の存在や趣旨の周知・浸透	8	8%
通常保育への影響	10	10%
その他	1	1%
合計	103	100%

Q20 園独自の広報を行っていますか？(複数回答可)

「園の掲示板」が31%と最も多くなっており、次いで「園のHP」が22%となっている。

項目	回答数	比率
園のHP	8	22%
園のSNS	4	11%
園の掲示板	11	31%
チラシ作成	5	14%
その他	4	11%
特にしていない	4	11%
合計	36	100%

Q21 その他、ご意見・ご質問がございましたら、ご記入ください。

ご意見等については次のとおりです。※誤字脱字等を一部修正しています。

(1)運営について

- ・ 定員数最大6名というのは保育の上で無理があるのではないかと実際やってみて感じている。園の規模にもよると思うので事業者からの申請で人数を決めるのではなく園の定員数等に応じて上限を決めていくとよいのではないかと(例:定員60未満園は2名、定員120未満は4名まで等)
- ・ 10月より開始して、とても順調に進めることができている。何より保護者の方がお迎えの時にとても良い表情をされて、リフレッシュされたのだと感じております。また、利用回数が増えてくると、子どもたちの成長も感じることができ、成長に合わせた取り組みをしていきたいと施設側も感じております。もう少し、人件費を出せるようになると、準備やイベントや様々なことに力を注げるので、やはり、人件費の確保をお願いいたします。
- ・ キャンセル料をもらう際に、都度足を運んで持ってきてもらわないといけないので、銀行から引き落としなど工夫が必要だと思う。
- ・ 子どもたちの成長支援や集団生活に慣れる場を形成するという考えの下、保育を行っておりますが、大半の保護者はリフレッシュ目的と面談の時に聞くのでやるせなさを感じることがあります。
- ・ 他園が、個別の指導計画をどのように作成しているか聞きたいです。

(2)制度について

- ・ 満3歳児までというくくりを、学年ごとのくくりにしてもらえると保護者の方が利用しやすくなると思う。
- ・ 名古屋市として制度が始まったばかりで、問題点が各園から上がっているかと思いますが、それらを集約し、園・保護者にとって有意義な制度になることを願っております。
- ・ 一時保育等を利用できない保護者にとって、こども誰でも通園制度への期待は大きいと感じ

じていますが、実施している事業所が少ないため、園にも問い合わせがたくさん来ます。1つの事業所でやれることは限られていて、受けたいと思っても枠がありません。地域の子どもの保育はそれなりのスキルが必要ですが、こども誰でも通園制度をやってみようと多くの保育園が思えるような制度設計にしてほしいと思います。

- ・ 令和8年度の公募条件(余裕活用型)の実施方法について名古屋市の考え方に注視している。10月からの名古屋市全体の事業の実績と実績に対する名古屋市の評価を聞きたい。
- ・ 公益事業問題、会計整理問題などについて明確な回答を一度いただきたい。事業者意見交換会が有意義な機会になればと考えております。

### (3)システムについて

- ・ 施設情報を記載ページの入力欄の文字数が少なすぎるように感じます。国のシステムが利用者のところが保護者が最初に表示されることが多く、同じ苗字だと判別しにくい。
- ・ 現場的には子どもの名前を先に認識しているので、保護者名が表示されると違和感があって使いにくいと感じます。
- ・ 利用のための保護者との対応を、誰通のシステム内だけでできるようにしてほしい。電話対応をしなければいけないことが多く、業務量が増えるため。例えば、定期予約。
- ・ システムの中の行動記録を記入するページに、名前を表示できるようにしてもらいたいです。書いているうちに他事が入ると誰のを書いていたのか分からなくなることがあります。
- ・ 年度の切り替えで利用するのか終了するのかが、できればシステムで保護者が回答して一斉に分かるようにしてもらいたいです。
- ・ 利用終了の子の書類は5年間保管ですが、システムの中の情報は保護者が削除する形でしょうか？
- ・ ワンタイムパスワードが届くメールを確認できるのが実際保育をする場と離れているので、当日のキャンセル確認や当日の様子を入力などがとても面倒。また、体調不良で突然にキャンセルされる場合、正規に利用した金額のキャンセル料を取りづらい。